Asia Trends

マクロ経済分析レポート

アジア経済マンスリー（2006年８月）

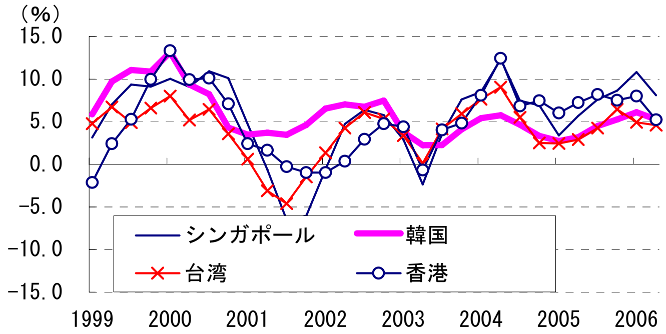
発表日：2006年９月４日(月)
第一生命経済研究所　経済調査部
担当　副主任エコノミスト　島田　武典(03-5221-4527)

●総括判断　～アジア地域の成長モメンタムはピークアウトの公算

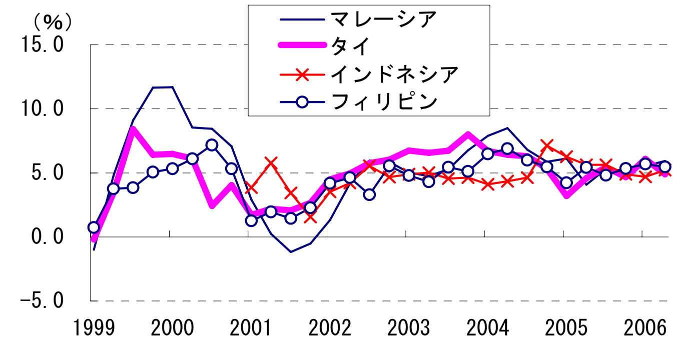
- 各国・地域で４－６月期の実質ＧＤＰ成長率が相次ぎ公表された。循環的な景気変動の影響をより強く受けるＮＩＥｓで景気回復のモメンタム鈍化が鮮明となり、ＡＳＥＡＮではほぼ前期並みの伸びにとどまっている。対象８ヵ国の加重平均成長率は、ウエイトの高いＮＩＥｓのピークアウトを反映し、４－６月期は前年比＋5.3％と前期の同＋6.1％から減速したと試算される。

- また、韓国・台湾ではＩＴ関連分野における在庫調整圧力の高まりがみられる。産業構造の違いから影響の程度は異なってこようが、各国・地域ともＩＴ関連分野の景気牽引力低下の影響は不可避となろう。こうしたことを踏まえれば、中国を除くアジア地域の成長モメンタムは４－６月期にピークアウトしたといえそうだ。

実質ＧＤＰ成長率の推移（前年比）



（出所）ＣＥＩＣ



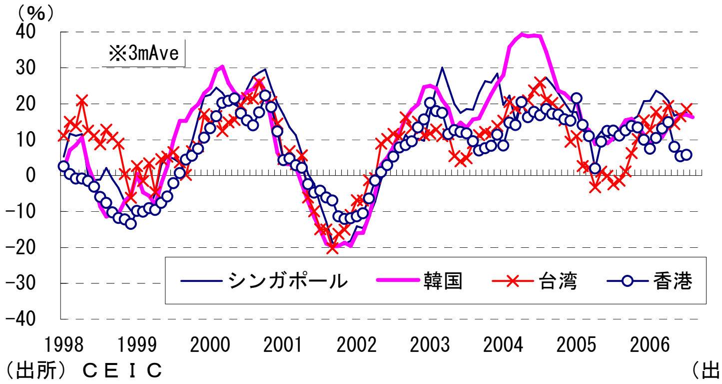
（出所）ＣＥＩＣ

●各国経済の現状判断

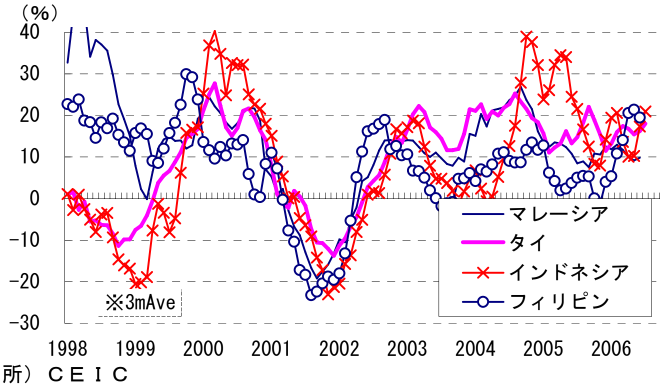
	方向性	コメント
香港	→	雇用環境改善続く下、個人消費が好調さを維持。輸出はモメンタム鈍化も持ち直しの動き。
台湾	→	輸出は高い伸び続くも、消費が低調。輸出受注の拡大ペースが緩やかながら鈍化しており、目先成長モメンタムはピークアウトの可能性も。
韓国	→	輸出・消費は堅調に推移も、建設投資の不振から固定資本形成が低調。家計・企業のマインド悪化、在庫調整圧力の高まりなど悪材料あり、成長モメンタムはピークアウトの可能性。
シンガポール	→	輸出の好調に加え、雇用環境の改善を背景とした消費の伸びが景気を牽引。
マレーシア	→	輸出の堅調さや雇用環境の改善を背景とした消費の伸びが景気を牽引。ただし、自動車販売の減速など、個人消費の伸びには一服感強まる。
タイ	↘	インフレや金利高、政情不安で消費者マインド低迷。メガプロジェクト執行遅れも景気に悪影響。
インドネシア	↘	輸出は堅調も、燃料価格引き上げに伴うインフレ、金利高で内需が不振。ただし、消費者マインドの改善みられ、限界的には個人消費に下げ止まり感も。
フィリピン	→	海外労働者からの送金を下支え要因として個人消費は底堅い動き。輸出も堅調に推移しており、景気はそこ固く推移。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

輸出動向（３ヵ月移動平均前年比）

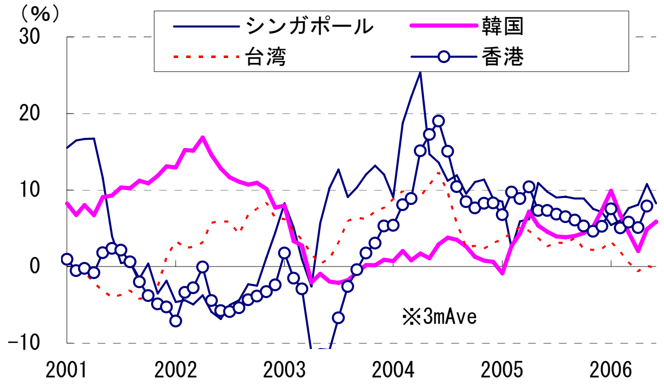


（出所）ＣＥＩＣ

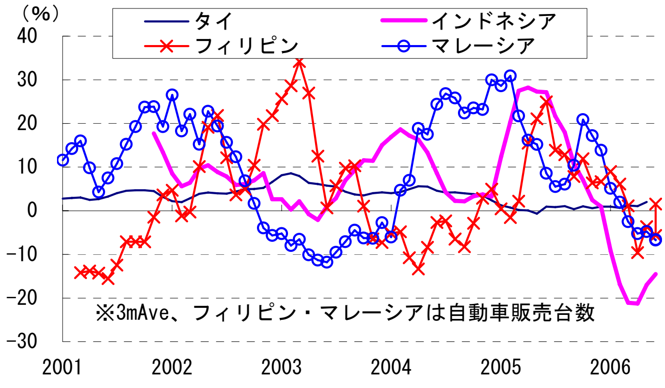


（出所）ＣＥＩＣ

消費動向（３ヵ月移動平均前年比）

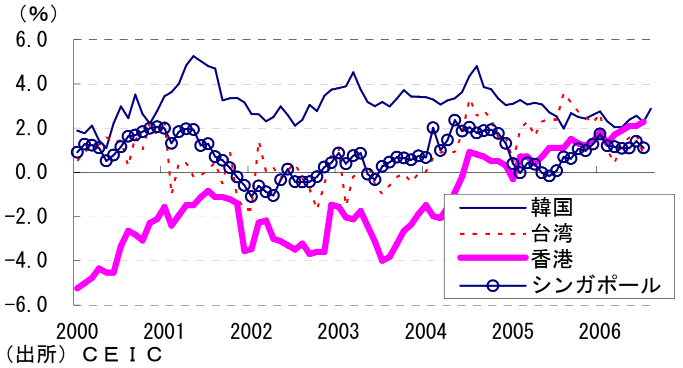


（出所）ＣＥＩＣ

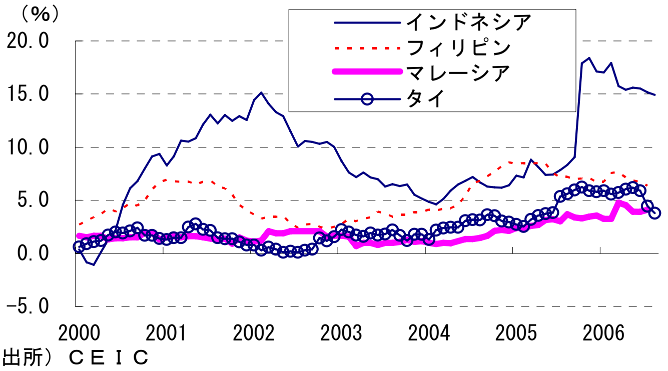


（出所）ＣＥＩＣ

消費者物価上昇率の推移（前年比）



（出所）ＣＥＩＣ



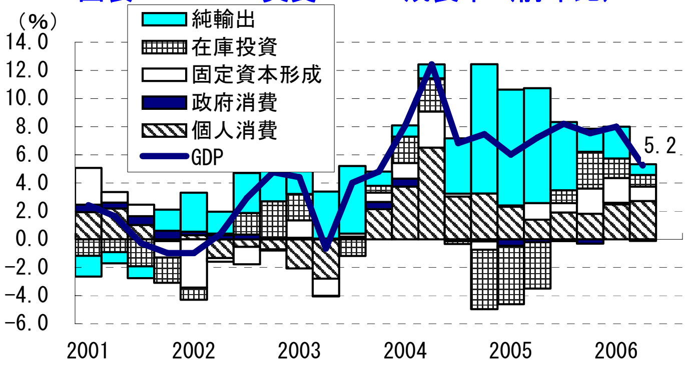
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜香港主要経済指標①＞

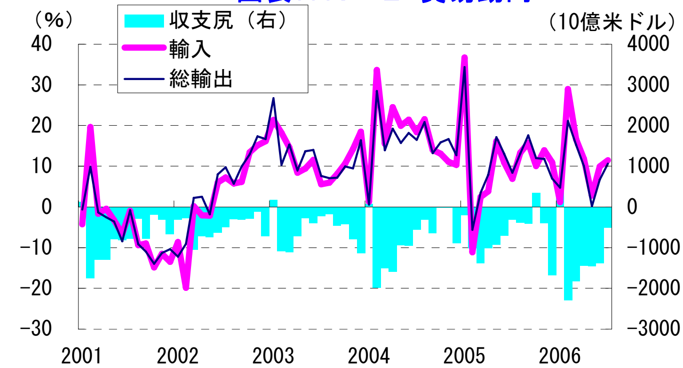
- ４－６月期の実質ＧＤＰ成長率は前年比＋5.2％と前期（同＋8.0％）から大幅に減速した。輸出が大幅に減速、外需寄与度が縮小したことが主因である。一方で、引き続き失業率が低水準にあるなど雇用環境が良好な状態にあることを背景に、個人消費は増勢を強め、成長率の下支え要因となっている。
- ７月の輸出は前年比＋10.7％（米ドル換算値）と前月（同＋6.8％）から伸びを高めた。中国からの再輸出が緩やかな回復傾向を維持している。

図表ＨＫ－１　実質ＧＤＰ成長率（前年比）



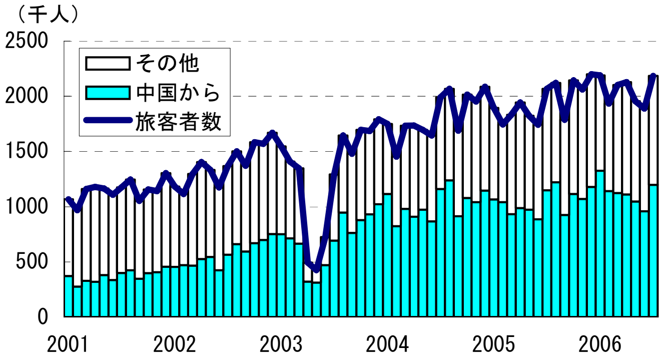
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＨＫ－２　貿易動向



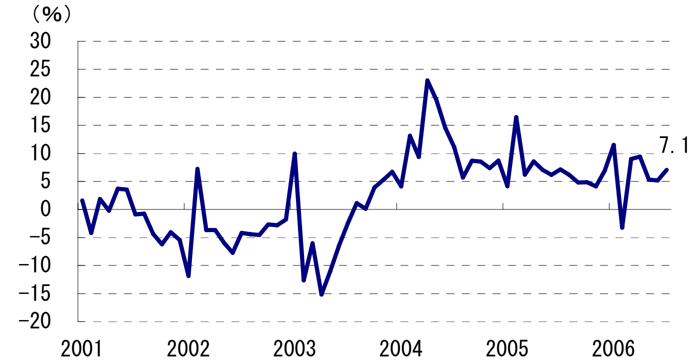
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＨＫ－３　来訪旅行者数の動向



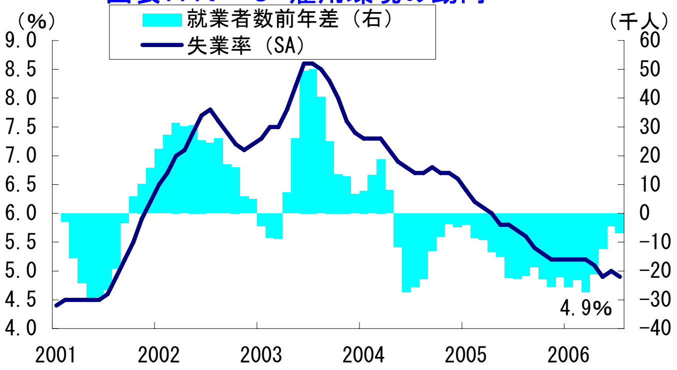
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＨＫ－４　小売販売指数（名目、前年比）



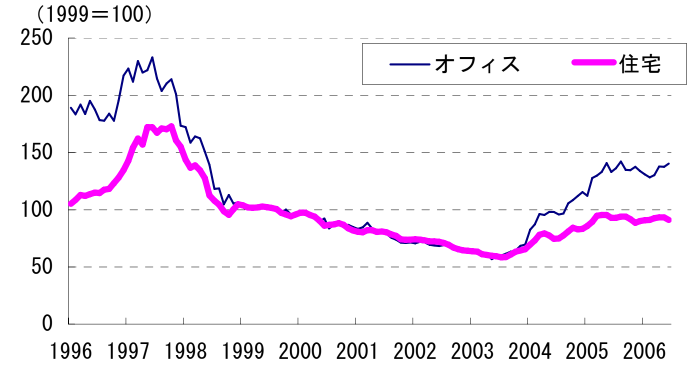
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＨＫ－５　雇用環境の動向



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＨＫ－６　不動産価格指数の推移



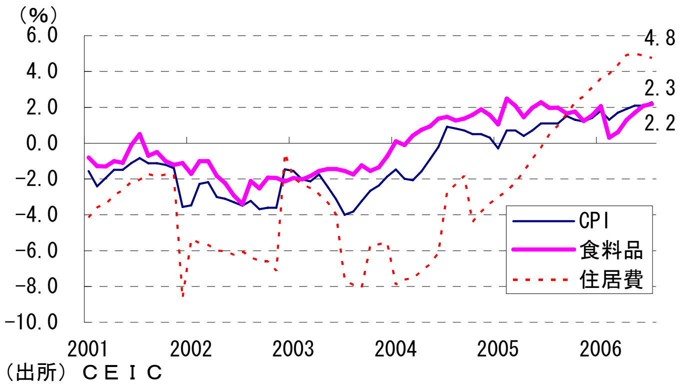
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜香港主要経済指標②＞

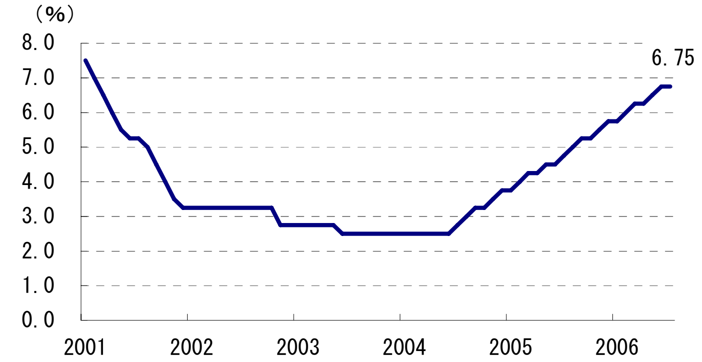
- ７月のＣＰＩ上昇率は前年比＋2.3％と前月（同＋2.2％）から小幅拡大、1998 年９月以来の高い伸びを記録した。主因は住居費（同＋4.8％）の上昇であるが、足元でそのペースは若干緩和されつつある。昨年７月以降、住居費は上昇基調に転じていることがこの背景とみられる。

図表ＨＫ－７　物価動向（前年比）



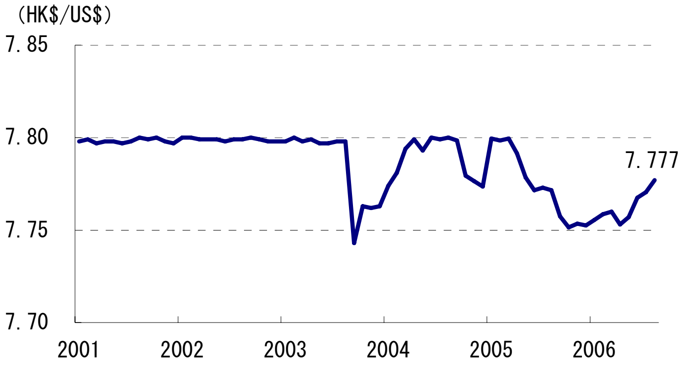
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＨＫ－８　政策金利（割引基準金利）



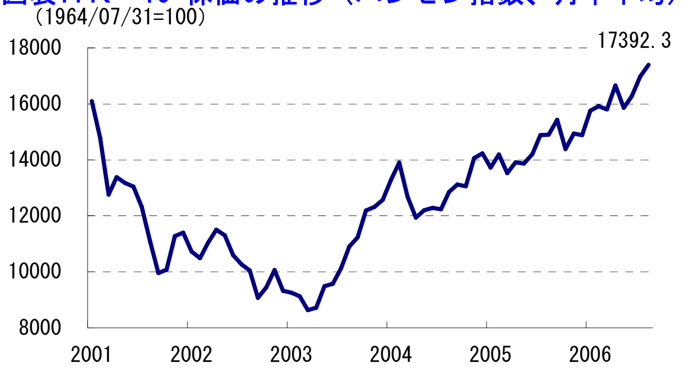
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＨＫ－９　為替動向（月次）



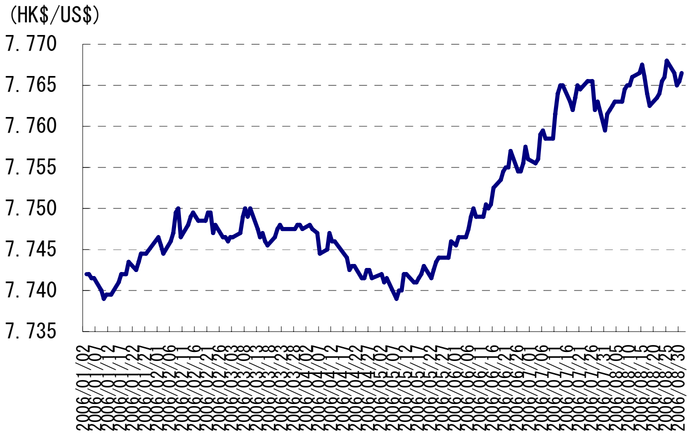
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＨＫ－10 株価の推移（ハンセン指数、月中平均）



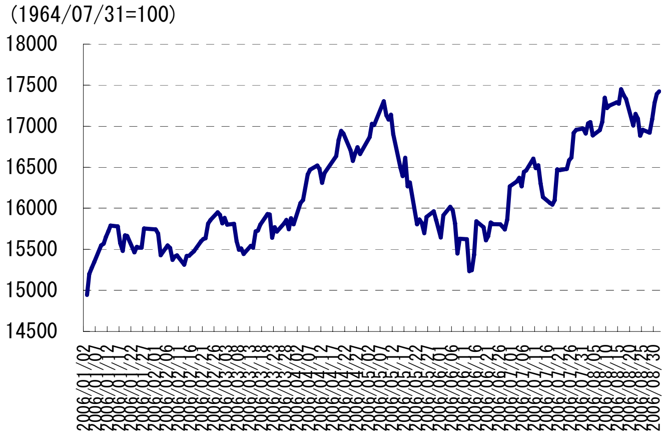
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＨＫ－11 為替動向（日次）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＨＫ－12 株価の推移（ハンセン指数、日次）



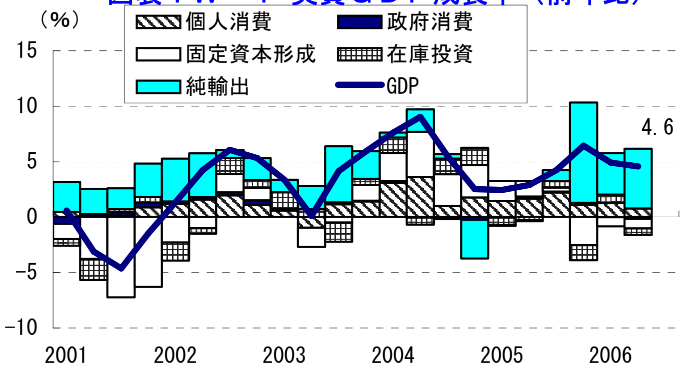
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜台湾主要経済指標①＞

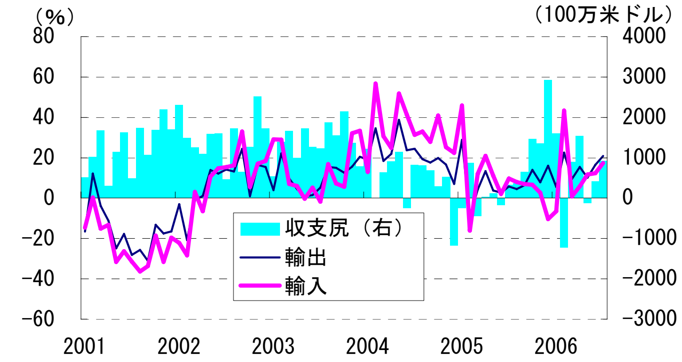
- 出荷の先行指標となる輸出受注の伸びは前年比＋19.4％と前月（同＋20.6％）から緩やかに減速した。主力である情報通信機器（当月：同＋16.8％、前月：同＋18.7％）や半導体など電子機器（当月：同＋19.8％、前月：同＋22.1％）に減速感がみられる。ＩＴ関連財には在庫調整圧力の高まりもみられることから、先行きＩＴ関連の輸出・生産は鈍化する可能性が高いといえよう。
- 失業率は 3.88％と前月から小幅低下、就業者数も拡大基調を維持するなど、雇用環境は改善基調が続いている。しかし、カード債務問題もあり、個人消費は低調な推移が続いている。

図表ＴＷ－１　実質ＧＤＰ成長率（前年比）



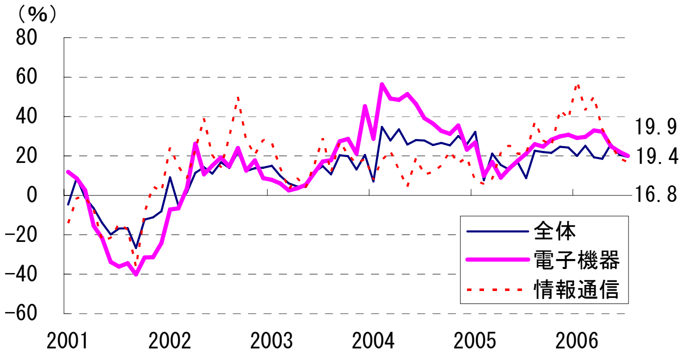
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＷ－２　貿易動向



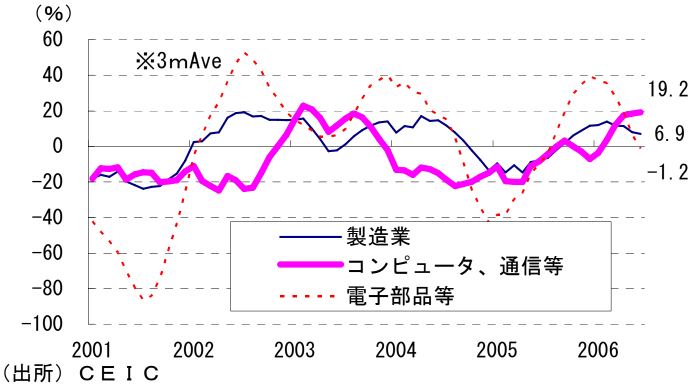
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＷ－３　輸出受注の推移（前年比）



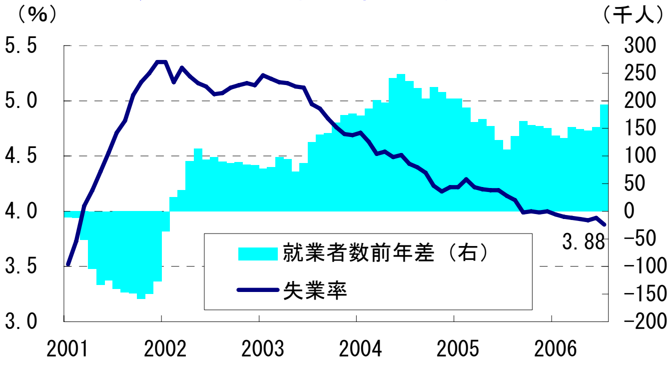
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＷ－４　出荷在庫バランスの推移



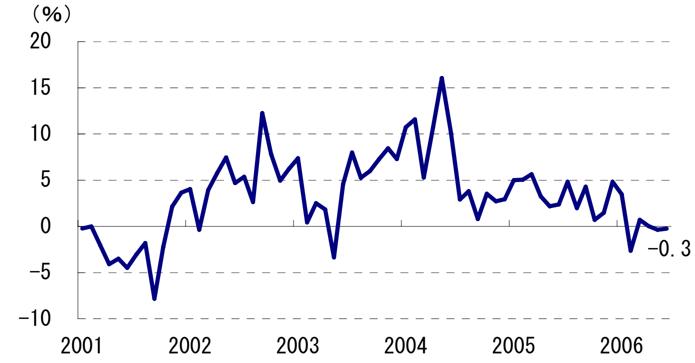
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＷ－５　雇用環境の動向



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＷ－６　消費動向（小売販売指数）



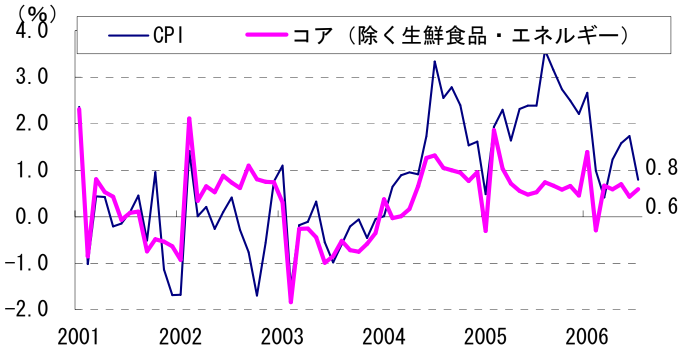
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜台湾主要経済指標②＞

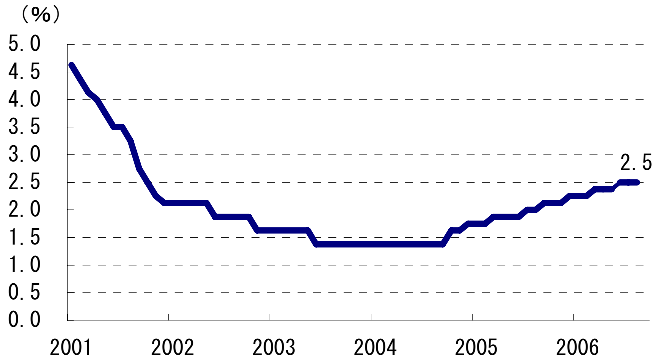
- ６月のＣＰＩ上昇率は前年比＋0.8％と前月（同＋1.7％）から伸び率が大幅縮小。天候要因を背景に食料品価格は大きく変動していることから、ここ数ヵ月のＣＰＩ総合の上昇率は不安定な動きが続いている。こうした影響を排除したコアベースでみれば物価上昇率は低位安定が続いていることが確認される。今後、原油高の影響がＣＰＩ上昇要因となるものとみられるが、個人消費の軟調もあり、波及度合いは限定的なものにとどまろう。

図表ＴＷ－７　物価動向（前年比）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＷ－８　政策金利

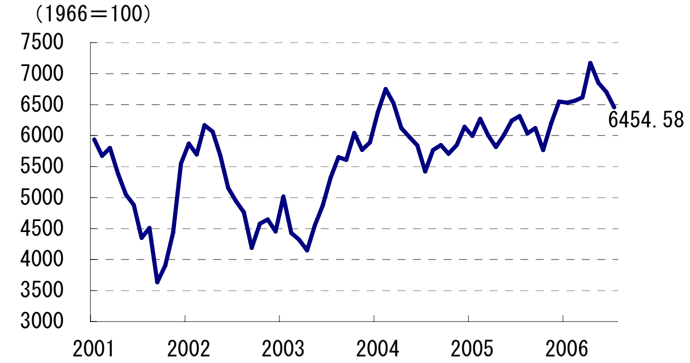


（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＷ－９　為替動向（月次）

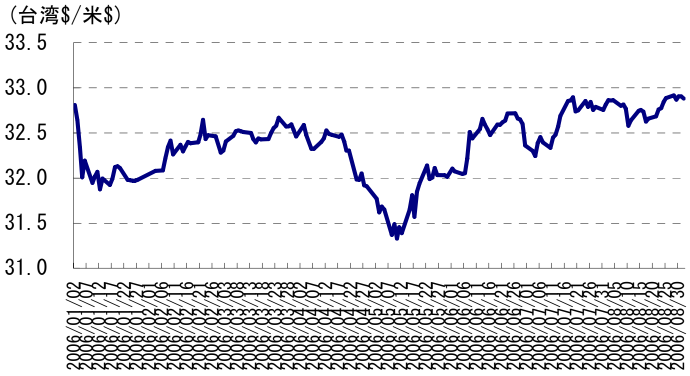
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＷ－10　株価の推移（加権指数、月中平均）



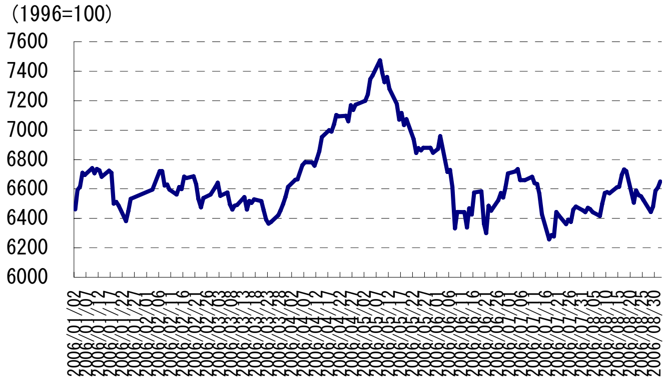
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＷ－11　為替動向（日次）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＷ－12　株価の推移（加権指数、日次）



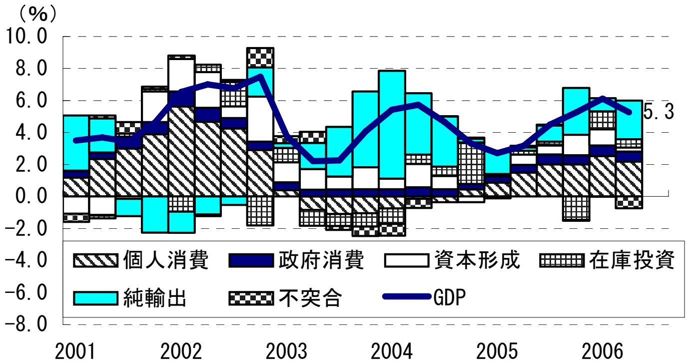
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜韓国主要経済指標①＞

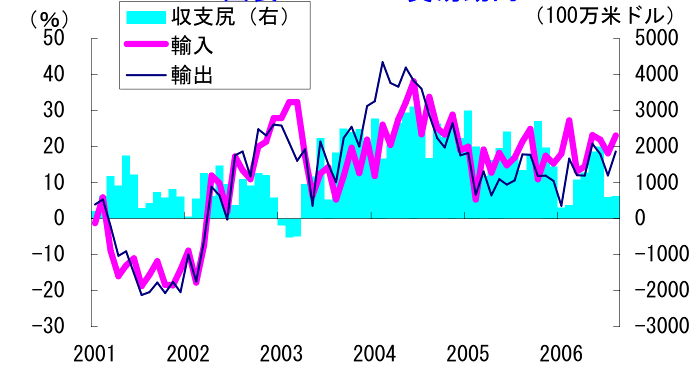
- ８月の輸出は前年比＋18.7 と前月（同＋12.0％）から伸びを拡大させた。前月は大手自動車メーカーにおけるストライキの影響から輸出の伸びが大きく押し下げられている。そうした影響を除けば足元における輸出の伸びは前年比＋15％程度で安定的に推移していると考えられる。
- 引き続き出荷・在庫バランスは悪化基調をたどっており、特に電子部品関連での在庫調整圧力が高まっている。ただし、７月単月では在庫上昇ペースが緩和（７月：前年比＋34.5％←６月同：43.2％）しており、現時点で深刻な生産調整をもたらすような状況にまでは至っていない。

図表ＫＲ－１　実質ＧＤＰ成長率（前年比）



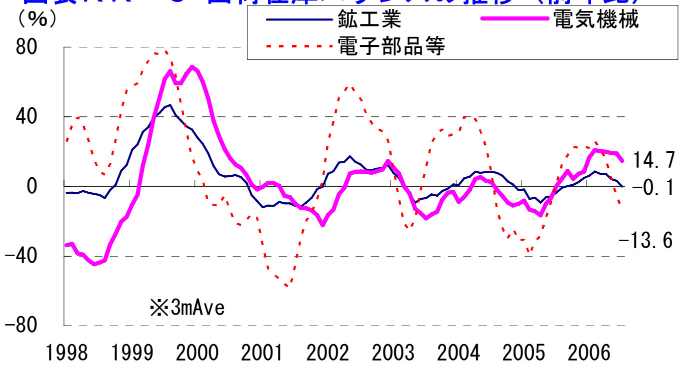
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＫＲ－２　貿易動向



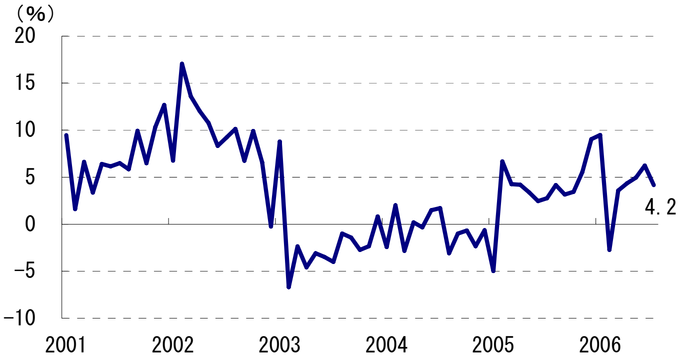
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＫＲ－３　出荷在庫バランスの推移（前年比）



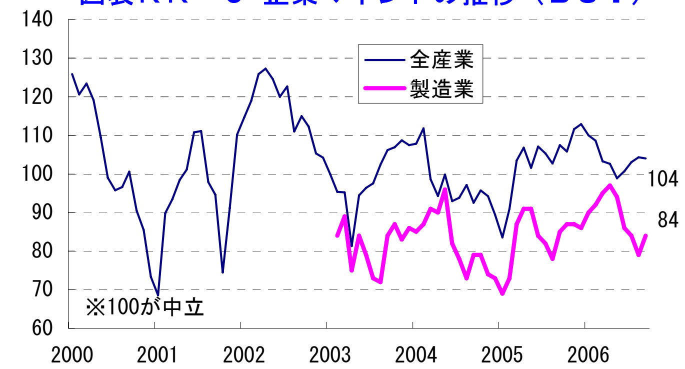
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＫＲ－４　小売販売指数の推移（前年比）



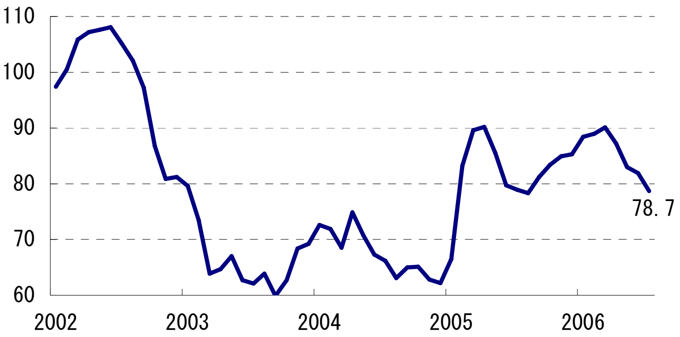
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＫＲ－５　企業マインドの推移（ＢＳＩ）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＫＲ－６　消費者マインドの推移



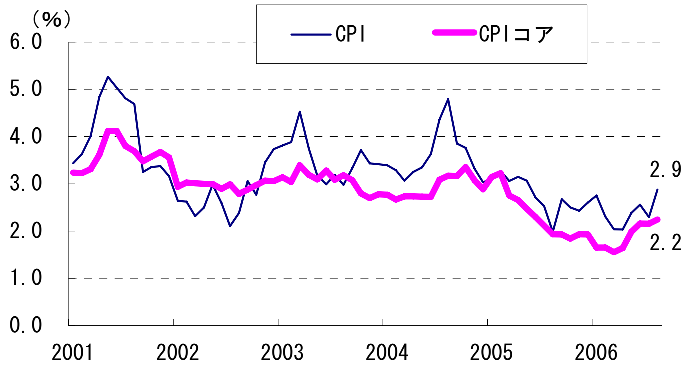
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜韓国主要経済指標②＞

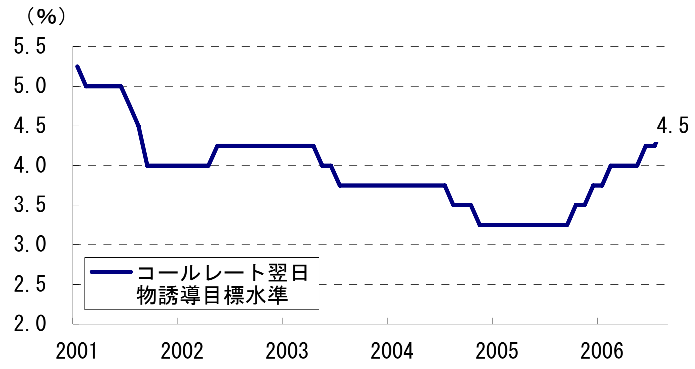
- ８月の消費者物価上昇率は前年比＋2.9％と前月（同＋2.3％）から小幅加速。輸送費の上昇寄与が一服する下、天候不順の影響から食料品価格が大きく上昇したことが伸び率拡大の主因である。コアインフレ率は同＋2.2％と安定的に推移しており、一時的要因を除けば物価動向の趨勢に大きな変化は生じていない。
- 韓国銀行は 2007 年～2009 年のインフレ目標について公表、ＣＰＩ上昇率の目標レンジを 3.0±0.5％とした。ターゲットをこれまで採用していたコア（生鮮食品や原油価格の影響を除く）ではなく、多くの国でより一般的に使われているＣＰＩ総合に切り替えたことが大きな特徴といえる。

図表ＫＲ－７　物価動向（前年比）



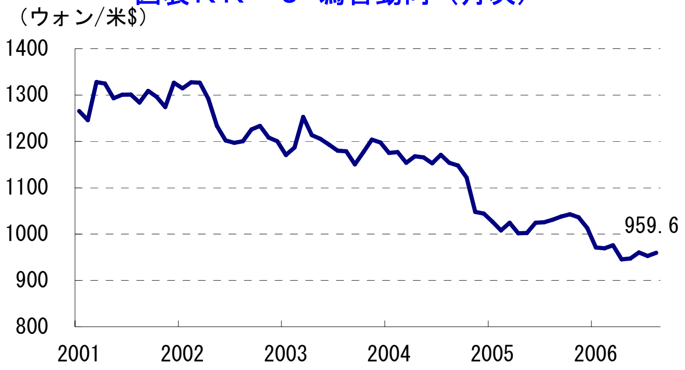
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＫＲ－８　政策金利



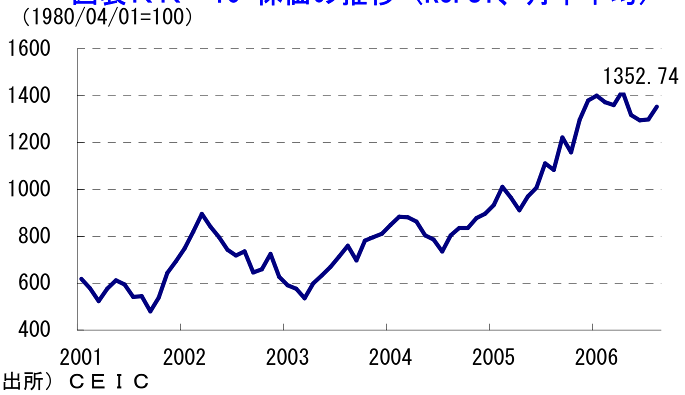
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＫＲ－９　為替動向（月次）



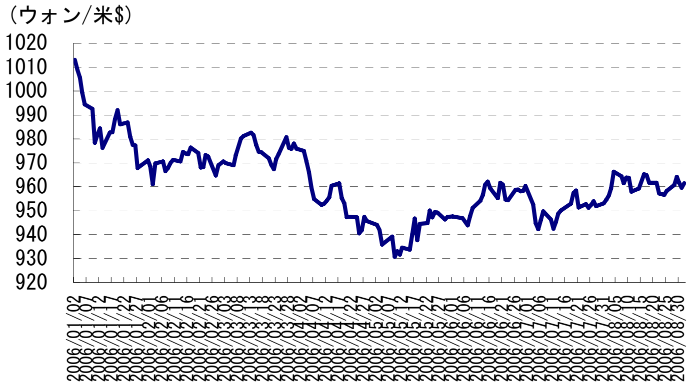
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＫＲ－10　株価の推移（KOPSI、月中平均）



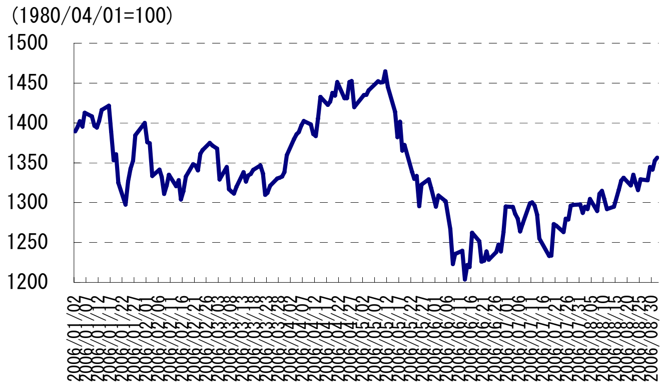
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＫＲ－11　為替動向（日次）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＫＲ－12　株価の推移（KOPSI、日次）



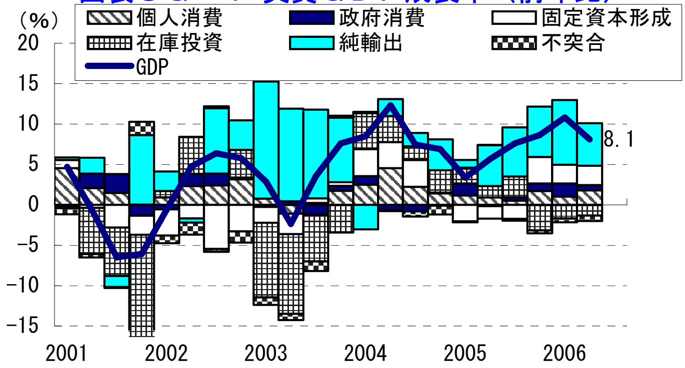
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜シンガポール主要経済指標①＞

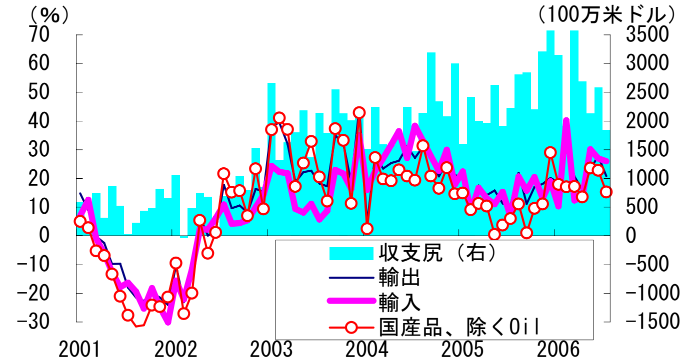
- ４－６月期の実質ＧＤＰ成長率（２次推計値）は前年比＋8.1％と、１次推計値の同＋7.5％から上方修正された。前期（同＋10.8％）対比では外需寄与度の縮小から成長率は鈍化したものの、堅調な個人消費が全体を下支えするなど景気動向は引き続き良好。
- ７月の輸出（国産品、除く石油関連）は前年比＋15.3％（ドル換算値、以下同様）と前月（同＋22.8％）から大きく減速した。月次の変動が激しい化学製品（医薬品等を含む）の増勢鈍化が主因。均してみれば輸出の増勢鈍化は緩やかなものにとどまっている。

図表ＳＧ－１ 実質ＧＤＰ成長率（前年比）



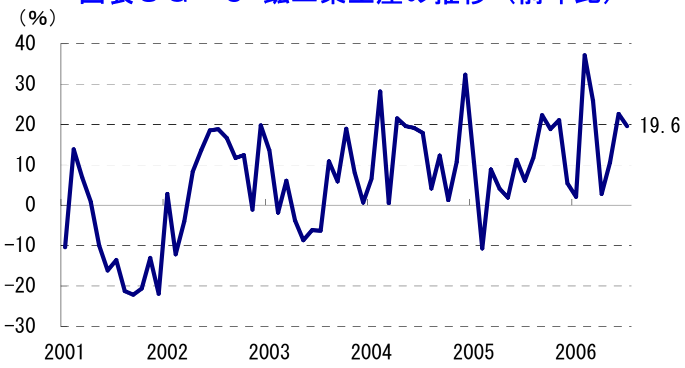
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＳＧ－２ 貿易動向



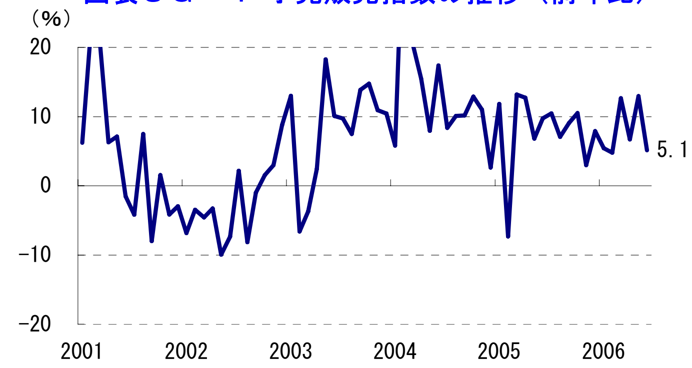
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＳＧ－３ 鉱工業生産の推移（前年比）



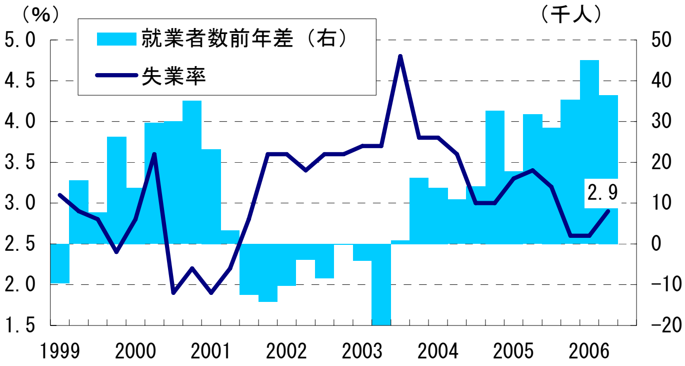
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＳＧ－４ 小売販売指数の推移（前年比）



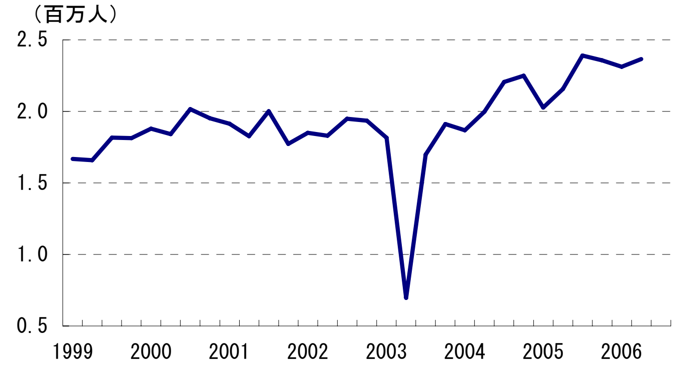
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＳＧ－５ 雇用環境の状況



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＳＧ－６ 来訪者数の推移



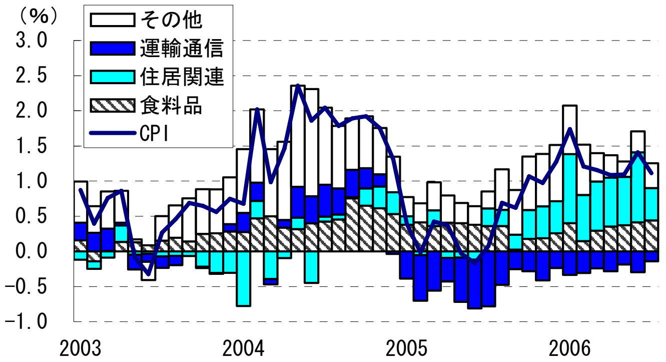
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜シンガポール主要経済指標②＞

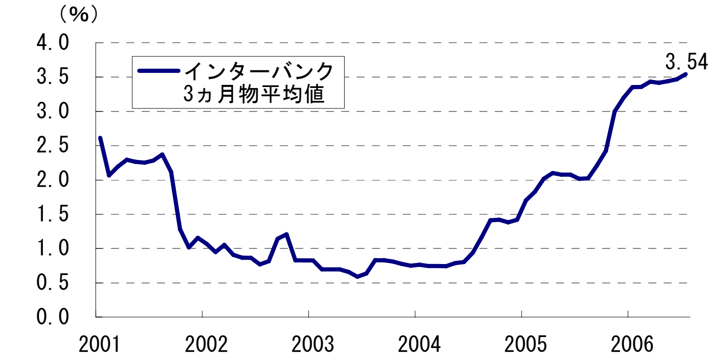
- 7月のＣＰＩ上昇率は前年比＋1.1％と前月（同＋1.4％）から伸び率を縮小させた。これまで全体を押し上げてきた住居関連費の寄与が縮小している。同費は昨年７月から上昇基調に転じていたことから、ベース効果によるものと考えられる。内需の好調や原油高などの物価上昇要因は存在するが、引き締め的な通貨政策（段階的で緩やかな通過高の容認）が引き続き物価上昇圧力を緩和している。

図表ＳＧ－７　物価動向（前年比）



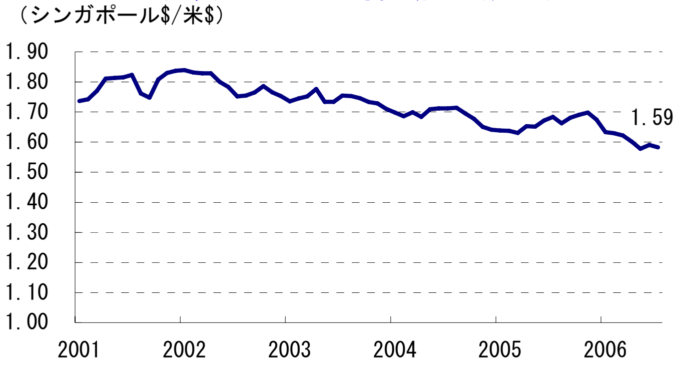
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＳＧ－８　市場金利の動向



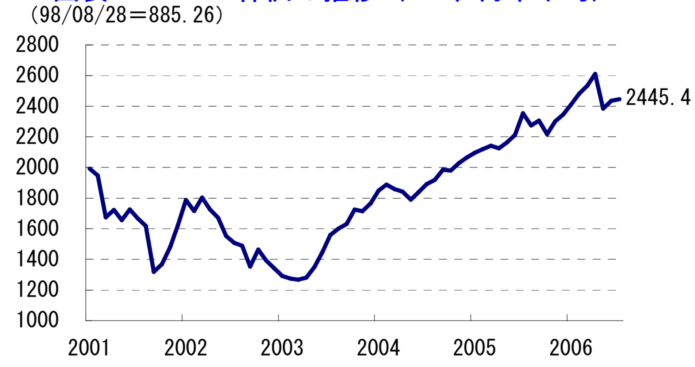
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＳＧ－９　為替動向（月次）



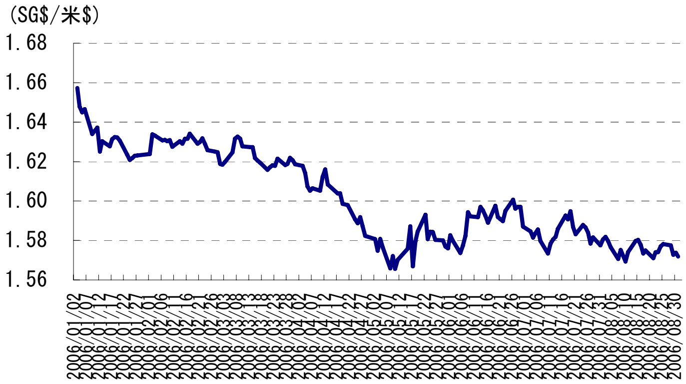
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＳＧ－10　株価の推移（STI、月中平均）



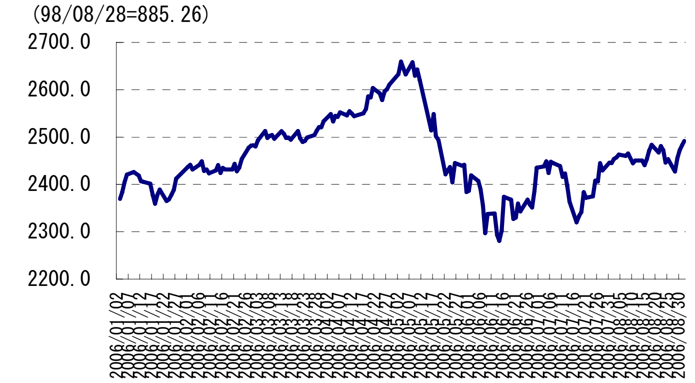
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＳＧ－11　為替動向（日次）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＳＧ－12　株価の推移（STI、日次）



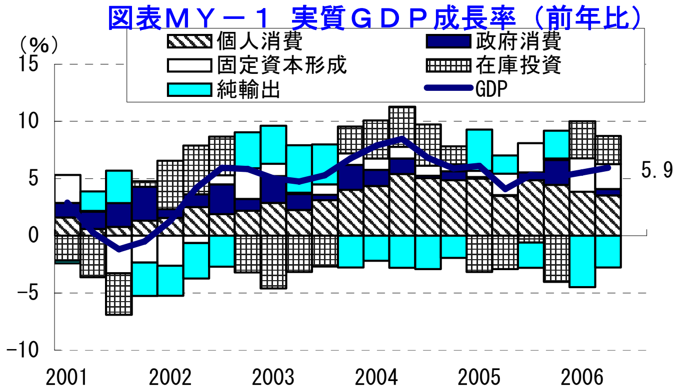
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜マレーシア主要経済指標①＞

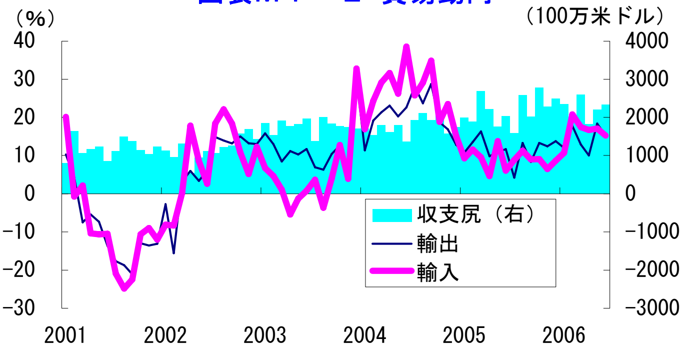
- ４－６月期の実質ＧＤＰ成長率は前年比＋5.9％となり、前期の同＋5.5％から小幅加速した。輸出の増勢鈍化がみられるものの、引き続き個人消費や投資が底固さを維持していることが安定的な景気回復に寄与している。
- ただし、利上げの累積的な影響もあり自動車販売台数が鈍化基調を示すなど、個人消費は回復に一服感が出始めている。先行き、景気が緩やかに減速する可能性が高まりつつある。

図表ＭＹ－１ 実質ＧＤＰ成長率（前年比）



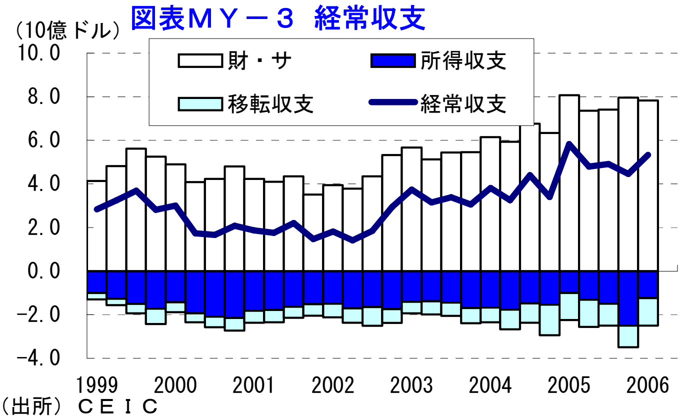
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＭＹ－２ 貿易動向



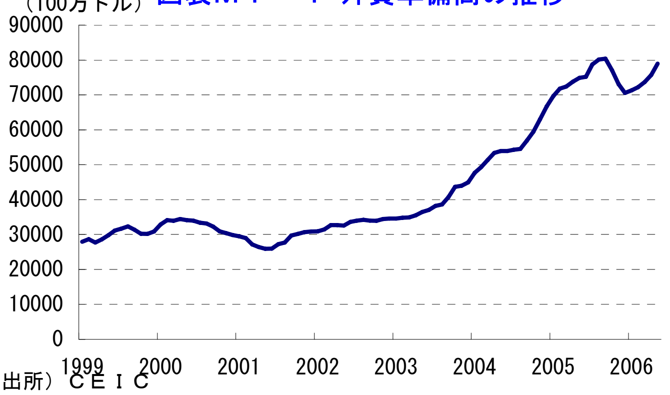
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＭＹ－３ 経常収支



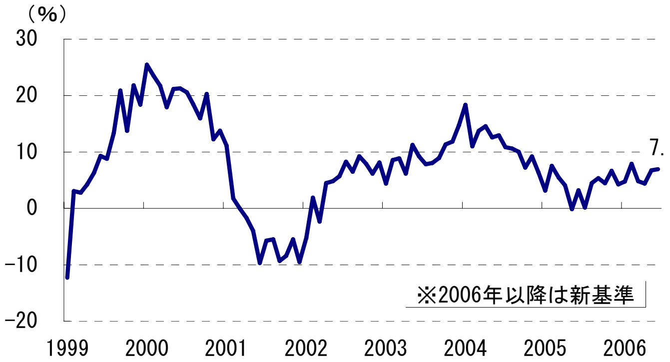
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＭＹ－４ 外貨準備高の推移



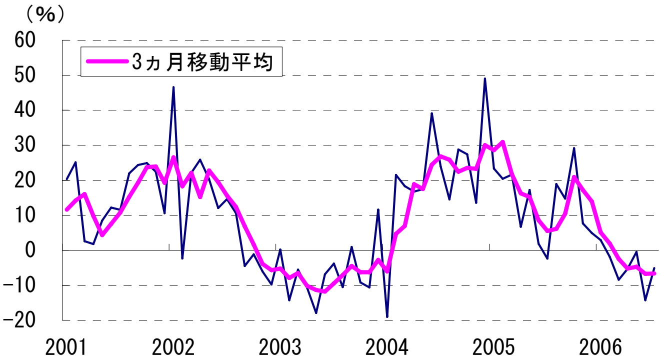
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＭＹ－５ 鉱工業生産指数の推移（前年比）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＭＹ－６ 自動車販売台数の推移（前年比）



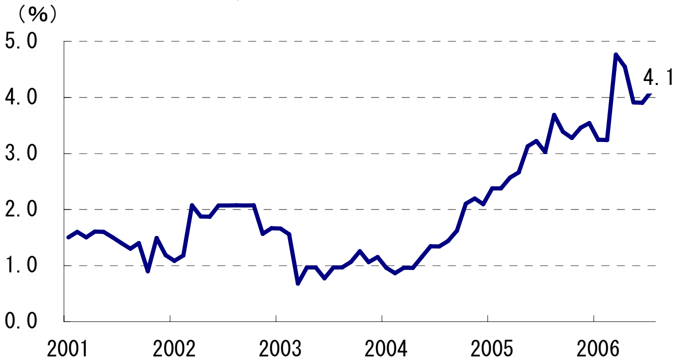
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜マレーシア主要経済指標②＞

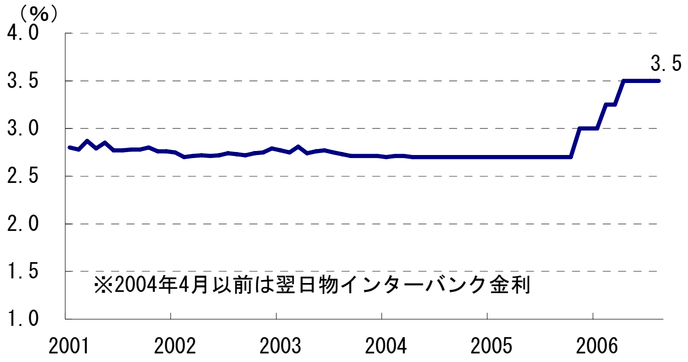
- ７月のＣＰＩ上昇率は食料品価格の上昇を受け、前年比＋4.1％と４ヵ月振りに伸び率が拡大した（前月：同＋3.9％）。これまで最も大きくＣＰＩ上昇率を押し上げてきた輸送費の押し上げ寄与が緩やかな縮小基調にあるなど、総じて物価上昇圧力は安定しているといえる。
- マレーシア中銀は今後も物価上昇圧力の緩和が見込まれることなどを背景に、オーバーナイト政策金利を3.5％で据え置いた（８月25日）。

図表ＭＹ－７　消費者物価の推移（前年比）



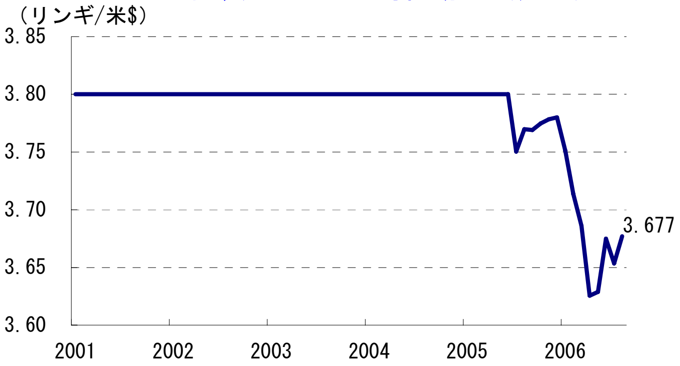
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＭＹ－８　政策金利（オーバーナイト目標水準）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＭＹ－９　為替動向（月次）

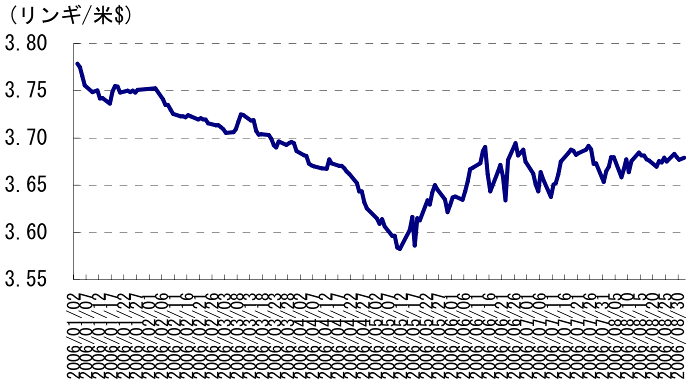


（出所）ＣＥＩＣ

図表ＭＹ－10　株価の推移（KLSE、月中平均）

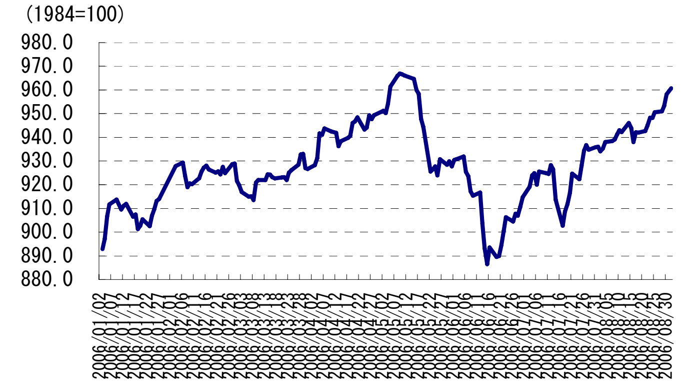
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＭＹ－11　為替動向（日次）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＭＹ－12　株価の推移（KLSE、日次）



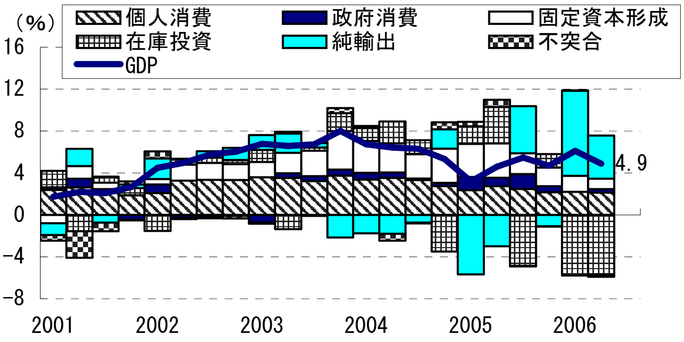
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜タイ主要経済指標①＞

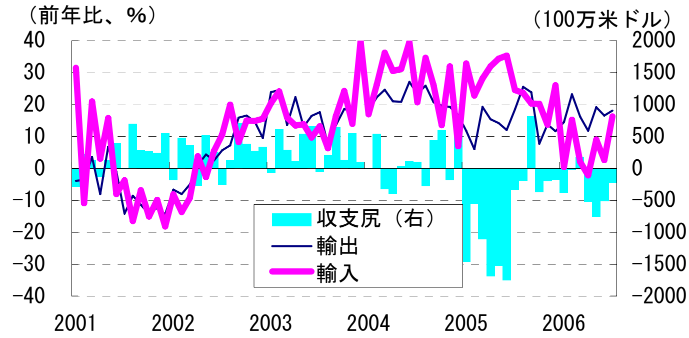
- ４－６月期の実質ＧＤＰ成長率は前年比＋4.9％となり、前期の同＋6.1％から減速した。輸入の伸びが高まったため、外需寄与度は縮小しているものの、輸出が堅調に推移し、内需が弱含む下で景気の下支え役を果たしている。
- ７月の輸出（ドル換算ベース）は前年比＋18.1％と前月（同＋16.5％）からやや伸びを高めた、均してみれば輸出は前年比＋18％程度での推移が続いており、底堅い動きが続いているといえる。輸入は内需が低調ながら、原油価格の高止まりを背景に過去最高水準にある。これらの結果、貿易収支は４ヵ月連続の赤字を記録した。

図表ＴＨ－１　実質ＧＤＰ成長率（前年比）



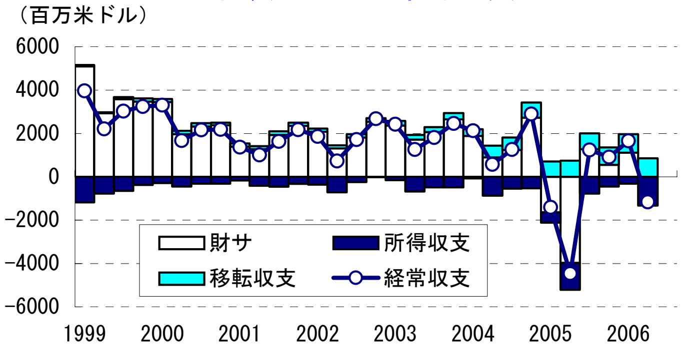
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＨ－２　貿易動向



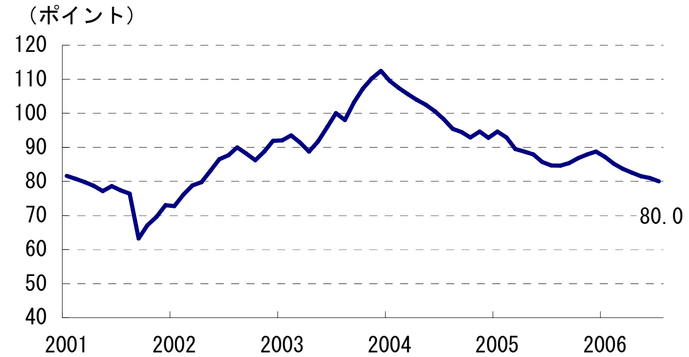
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＨ－３　経常収支



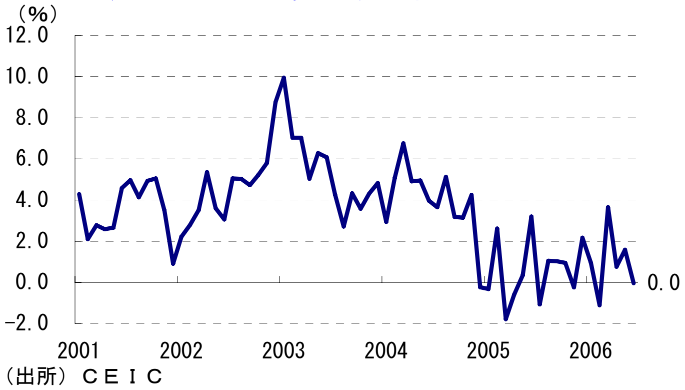
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＨ－４　消費者信頼感指数の推移



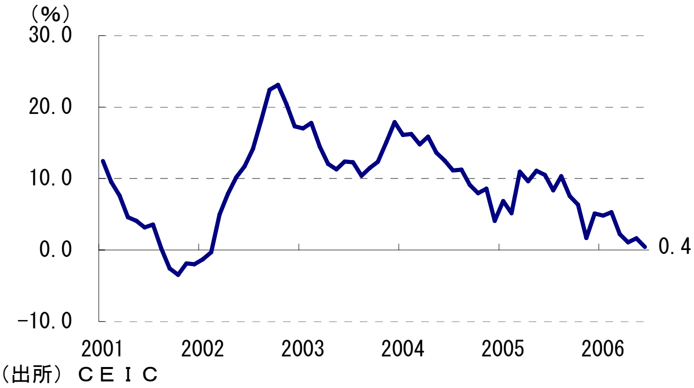
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＨ－５　消費指数の推移（前年比）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＨ－６　設備投資指数の推移（前年比）



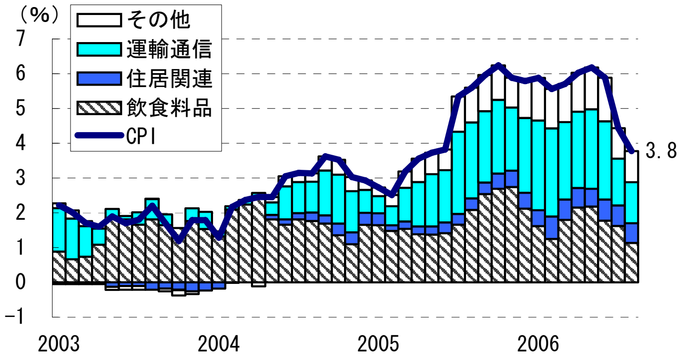
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜タイ主要経済指標②＞

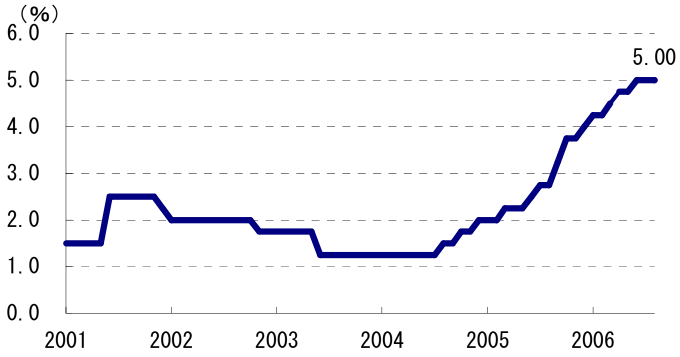
- ７月のＣＰＩ上昇率は前年比＋3.8％と前月（同＋4.4％）から大幅に縮小、昨年６月以来の低い伸びとなった。内訳をみると、輸送費値上げの影響が一巡したこと、食料品価格の上昇ペースが緩和されていることなどが全体の上昇率低下に寄与している。
- こうした物価上昇圧力の軽減を背景に、タイ中央銀行のプリディヤトーン総裁は年内は金利据え置きが可能であるとの見通しを示した。

図表ＴＨ－７　物価動向（前年比）



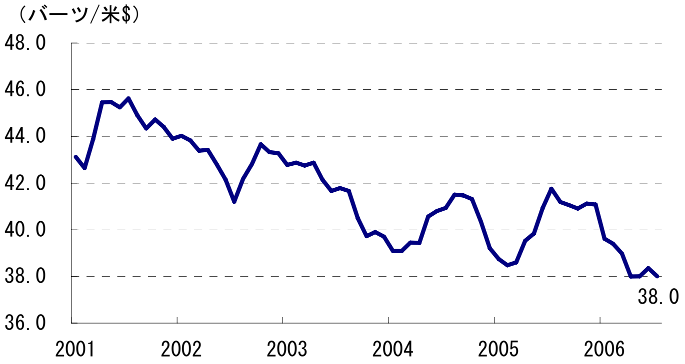
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＨ－８　政策金利（14 日物レポ金利）



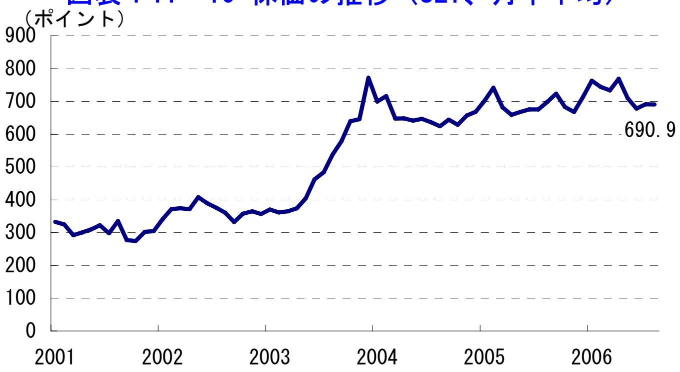
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＨ－９　為替動向（月次）



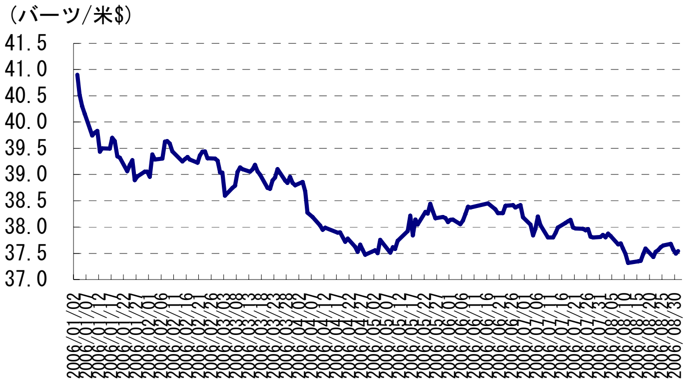
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＨ－10 株価の推移（SET、月中平均）



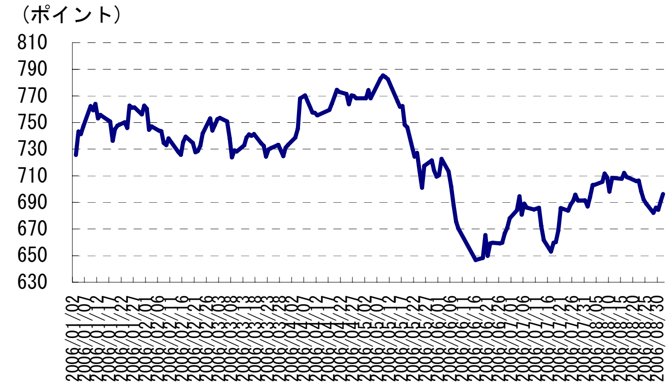
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＨ－11 為替動向（日次）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＴＨ－12 株価の推移（SET、日次）



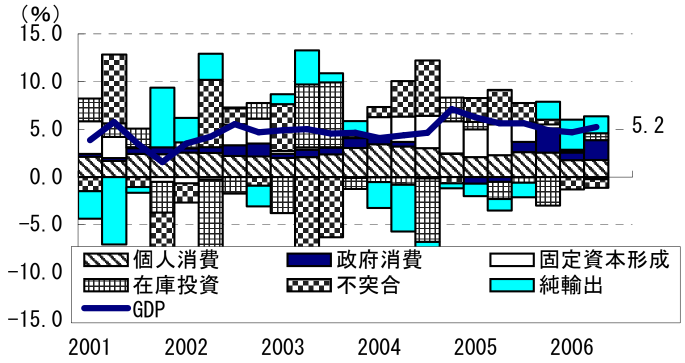
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜インドネシア主要経済指標①＞

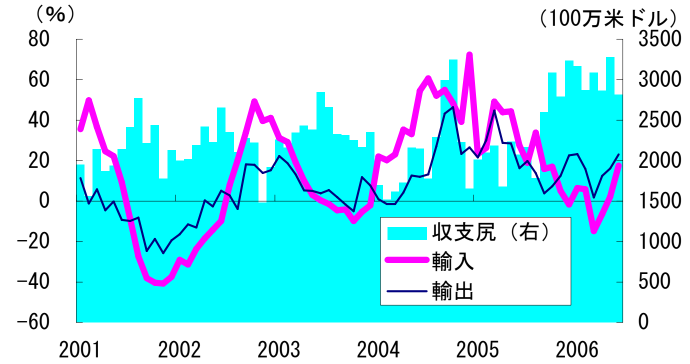
- ４－６月期の実質ＧＤＰ成長率は前年比＋5.2％と前期（同＋4.7％）からやや伸びを高めた。個人消費は引き続き軟調ながらも下げ止まりの動きをみせている。
- 月次指標からは消費者マインドの持ち直しが確認されていることや、利下げが実施されていることなどを勘案すれば、先行きの個人消費は回復に転じることが期待される状況といえそうだ。

図表ＩＤ－１　実質ＧＤＰ成長率（前年比）



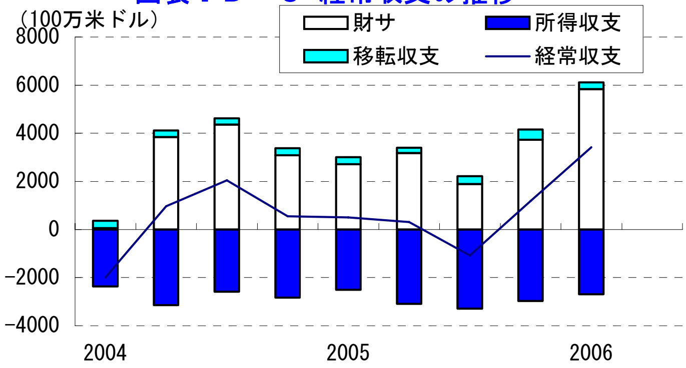
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＩＤ－２　貿易動向



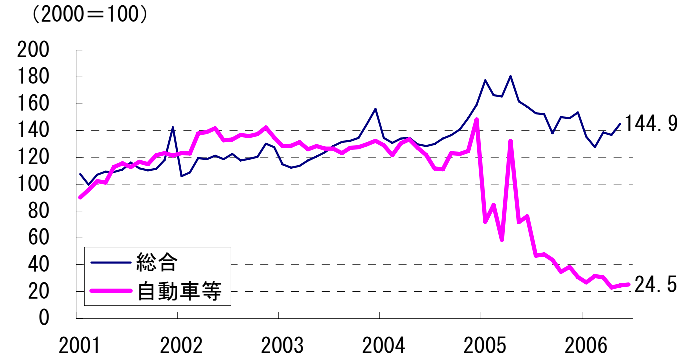
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＩＤ－３　経常収支の推移



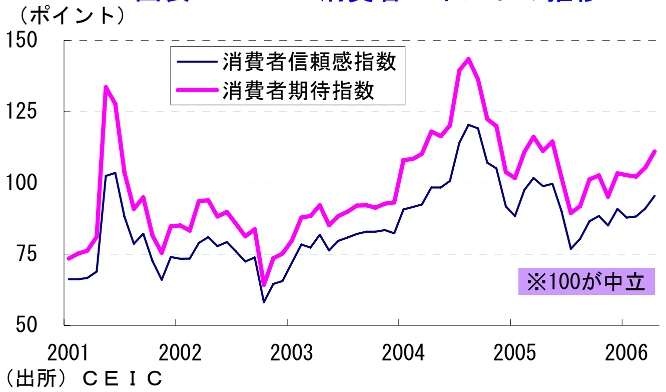
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＩＤ－４　小売販売指数の推移



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＩＤ－５　消費者マインドの推移



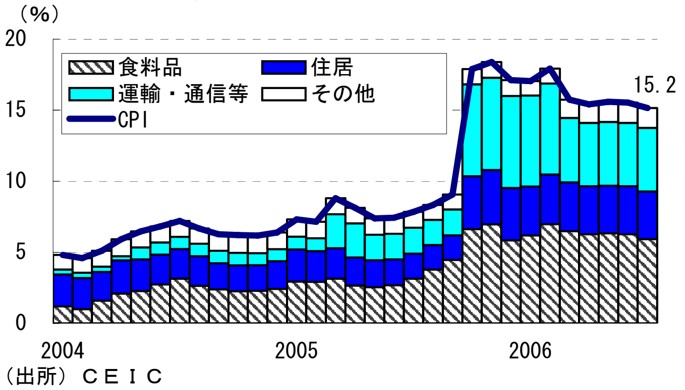
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜インドネシア主要経済指標②＞

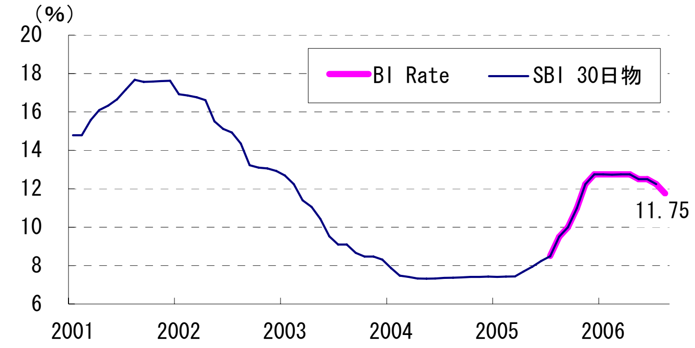
- ７月のＣＰＩ上昇率は前年比＋15.2％と前月（同＋15.5％）から小幅縮小した。食料品価格の上昇ペース緩和が主因となっている。
- 上述したインフレ率の低下や内需の低迷を受け、インドネシア中銀は政策金利である１ヵ月短期証券金利の目標水準を 0.5％引き下げ、11.75％とした（８月８日）。今年３回目の利下げ実施で、累計利下げ幅は1.0％となった。

図表ＩＤ－６ 物価動向（前年比）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＩＤ－７ 金利の動向

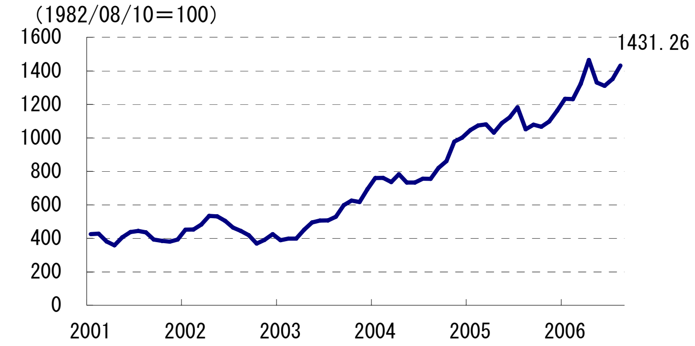


（出所）ＣＥＩＣ

図表ＩＤ－８ 為替動向（月次）

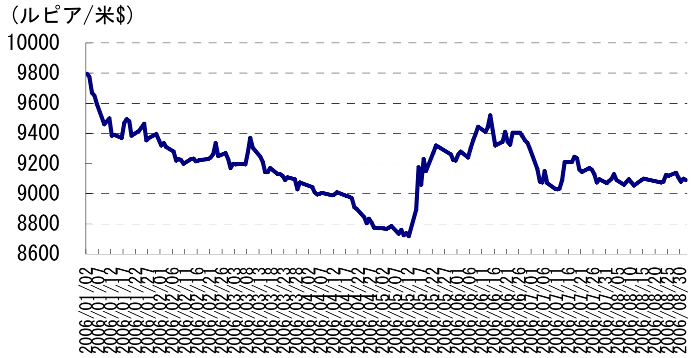
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＩＤ－９ 株価の推移（JCI、月中平均）



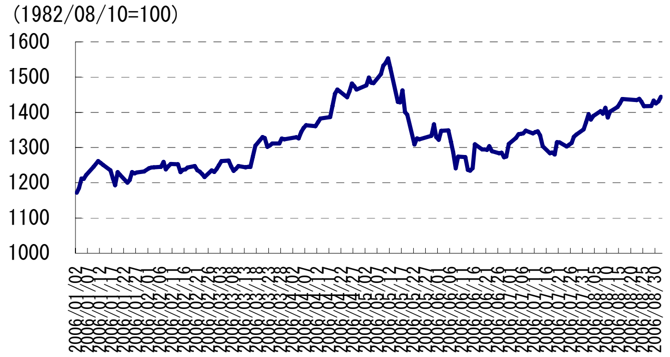
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＩＤ－10 為替動向（日次）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＩＤ－11 株価の推移（JCI、日次）



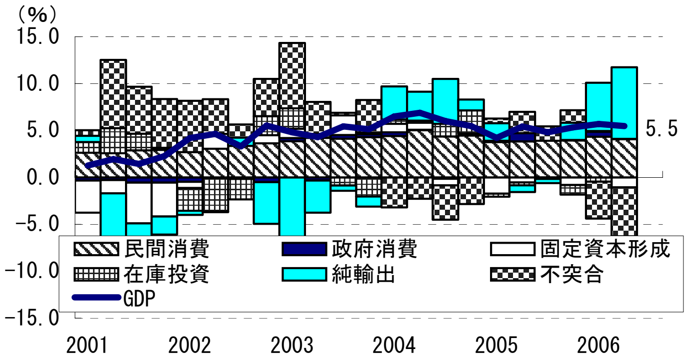
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜フィリピン主要経済指標①＞

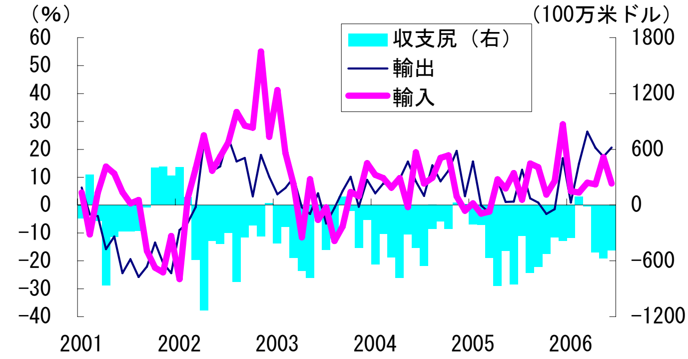
- ４－６月期の実質ＧＤＰ成長率は前年比＋5.5％とほぼ前期（同＋5.7％）並みとなった。輸出の高い伸びを背景に外需寄与度が大幅に拡大、個人消費も引き続き安定的に推移している。
- ６月の輸出は前年比＋20.6％と前月（同＋17.3％）から加速。ただし、半導体など電子部品輸出の伸び鈍化が明確となっている（６月：同＋6.6％←５月：同 10.0％←４月：同 20.7％）。今後、世界的な需要の減速を背景に輸出の増勢が鈍化する可能性が高まりつつある。一方、輸入は同＋7.7％と前月（同＋17.1％）から大きく伸びを鈍化させたものの、原油高の影響などから引き続き過去最高水準にある。この結果、貿易収支は▲4.8億ドルと４ヵ月連続の赤字となった。

図表ＰＨ－１ 実質ＧＤＰ成長率（前年比）



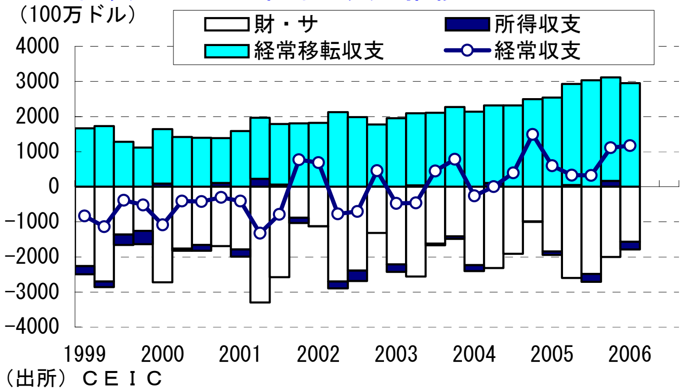
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＰＨ－２ 貿易動向



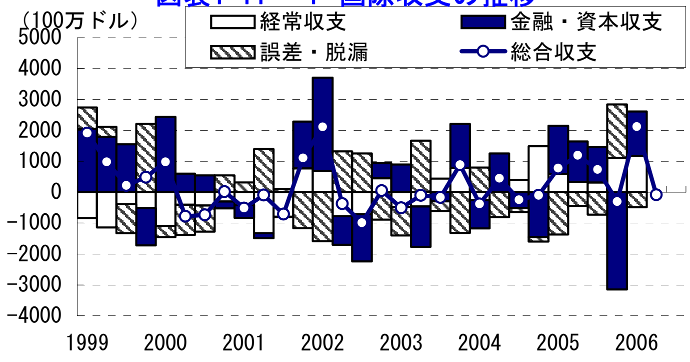
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＰＨ－３ 経常収支の推移



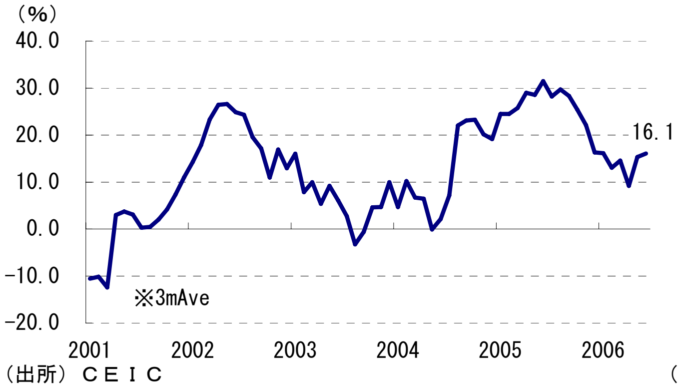
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＰＨ－４ 国際収支の推移



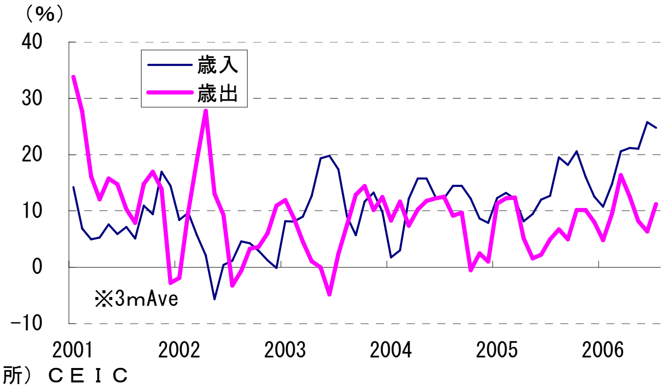
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＰＨ－５ 海外労働者送金額の推移（前年比）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＰＨ－６ 中央政府歳出入の推移（前年比）



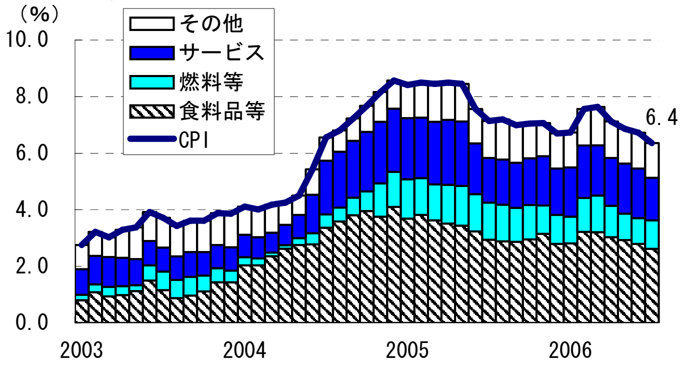
（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

＜フィリピン主要経済指標②＞

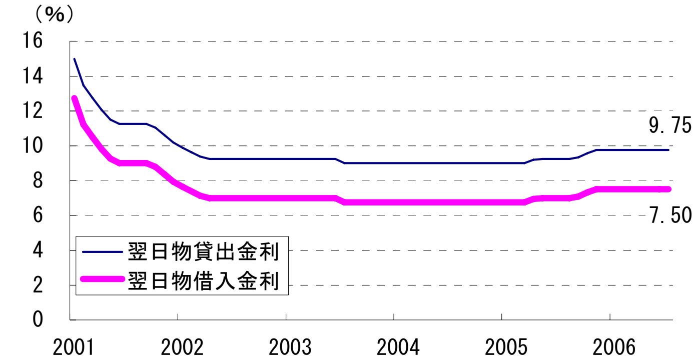
- 　７月のＣＰＩ上昇率は飲食料品価格の上昇圧力緩和を主因に、前年比＋6.4%と前月から小幅縮小した。上昇幅はおよそ２年振りとなる低水準。物価上昇率は３月をピークに緩やかに低下基調をたどっている。ペソ高基調が定着していることもあり、物価上昇率は今後も緩やかに低下していくことが予想される。
- 上述のインフレ率の安定もあり、中央銀行は政策金利を7.5%で据え置いた（８月10日）。

図表ＰＨ－６　物価動向（前年比）



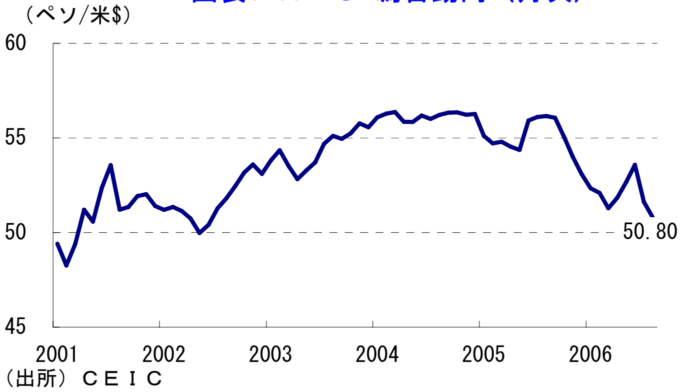
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＰＨ－７　政策金利



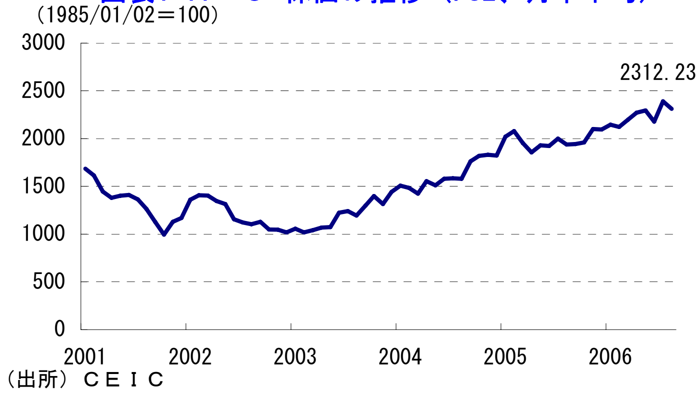
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＰＨ－８　為替動向（月次）



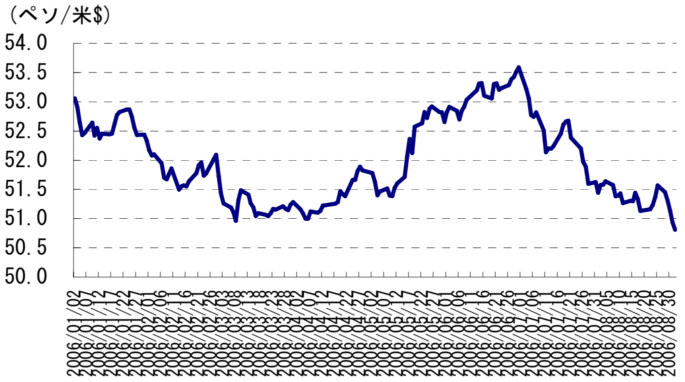
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＰＨ－９　株価の推移（PSE、月中平均）



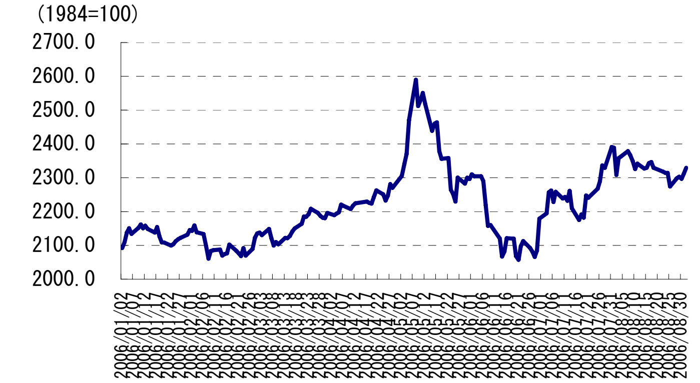
（出所）ＣＥＩＣ

図表ＰＨ－10　為替動向（日次）



（出所）ＣＥＩＣ

図表ＰＨ－11　株価の推移（PSE、日次）



（出所）ＣＥＩＣ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。